

【発表要旨】

栃木県佐野市葛生町にくずう原人まつりという祭りがある。

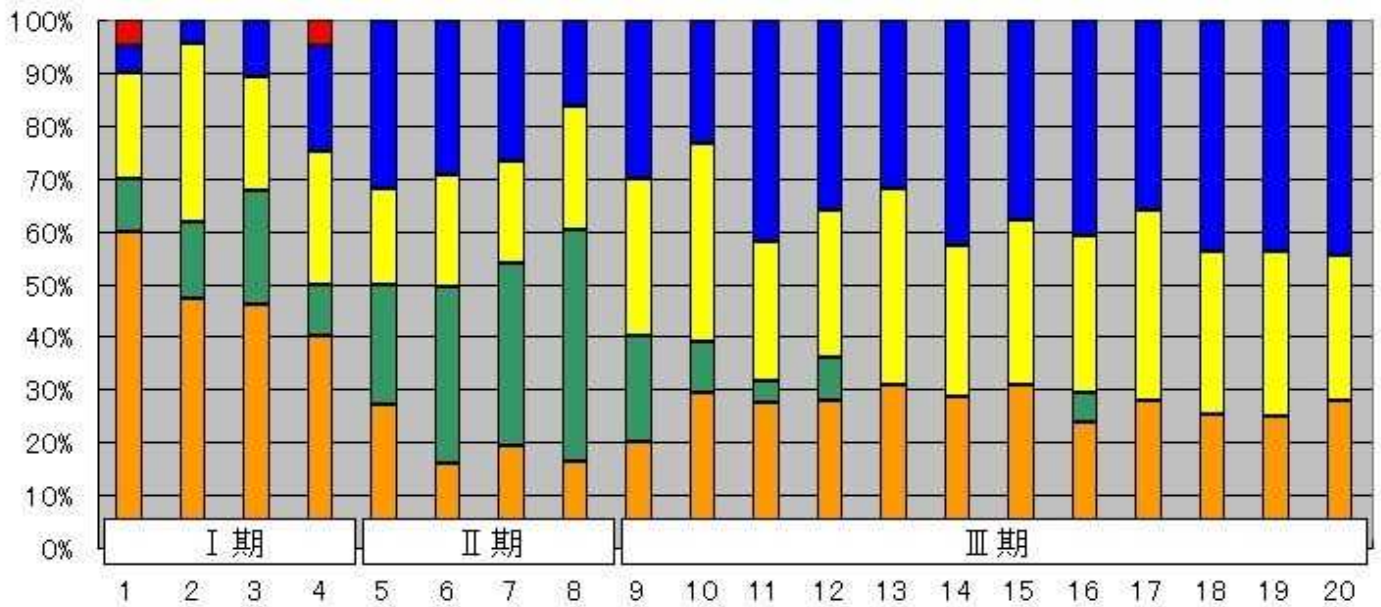
江戸時代以降の石灰産業で発達してきた葛生町だが、高度経済成長期には新産業の確立に悩み、加えて発生した大気汚染公害によって人口流出が顕著となった。こうした閉塞感を打破するため 1988 年に始まったのがくずう原人まつりである。この町で 1950 年に発見された葛生原人を題材として、「かつて原人が住んでいた時代、葛生は日本で最も文化の先進的な土地であったはずだ」(第一回原人まつりへの半村良のメッセージ)、「どこいくずうも捨てたもんじゃなー」(第一回原人まつり副題) という想いを原動力に祭りは動き始めたのであった。

2007 年に原人まつりは 20 周年を迎えた。しかしこの営みを振り返ってみると、祭りは同一の名称を持ちながらその内容は必ずしも同じではない。今回はその変遷を探るために祭りのイベント内容に着目しその性質の変化を分析した。その結果、初期については、町おこしを最大の目的としたため、「原人」を前面に出したものが多く、中期については、原人まつりの 2 会場のうちのあきやま会場がもう 1 つのかたやま会場に対して明確な独自色を打ち出したため、当会場で実施するイベントが増加した。後期については、町おこしの達成を受けて人おこしの面が強調されたため、地元の伝統芸能や外部との交流が促進された。そして次第に祭りのイベントは多様化したと考えられる。

こうした祭りにおける個別の変化は民俗学の都市祭礼研究によって説明される。だが全体的な視点から祭りの歴史を眺めてみると、そこには文化人類学の客体化論における慣習と非慣習が絡み合うインベンション(再発明)の様相を読み解くこともできる。本稿はくずう原人まつりにおいて、これらの成果による理論付けを試みた。当初に原人を慣習としていた祭りは来場者の急増やまちづくりの機運の高まりといった非慣習の影響を受けて、最終的には人材育成の祭りという新しい慣習を生み出すに至ったのである。同時に変化の中で変わらない中核も存在する。それは原人イメージに表象されている「葛生町を愛する気持ち」だと思われる。すなわちくずう原人まつりは変わらぬ軸を中心に慣習と非慣習の絡み合いで成立している祭りと言えるだろう。それを象徴するものが「葛生原人」を冠して、祭りの担い手たちが自らを「葛生の原人」と呼ぶ事実である。その担い手も含めたくずう原人まつりは客体化を経て、今もなおいきいきとした存在として創出され続けている。

【卒業論文目次】

- | | |
|--|------------------------|
| 1. 研究概要 | 3. 客体化されるくずう原人まつり |
| 1-1. 本研究の目的 | 3-1. くずう原人まつりの変遷 |
| 1-2. 先行研究 | 3-2. 原人イメージの変遷 |
| 1-2-1. 祭りの先行研究 | 3-3. 変わらない「伝統」 |
| 1-2-2. 伝統論の先行研究 | |
| 1-2-3. 異文化接触の先行研究 | 4. くずう原人まつりの社会的影響力 |
| 1-2-4. 先行研究のまとめ | 4-1. 経済的効果 - 過疎地域からの脱却 |
| 1-3. 本研究のアプローチ | 4-2. 教育的効果 |
| | 4-3. ネットワークの形成 |
| | 4-4. 葛生における文化資源との向き合い方 |
| 2. 調査対象の概要 | 5. 結論 |
| 2-1. 調査地の概要 | |
| 2-2. 「葛生原人」とは | |
| 2-3. くずう原人まつりのイベント内容 | |
| 2-4. くずう原人まつりの歴史的概要 | |
| 2-4-1. くずう原人まつり以前(0期) | |
| 2-4-2. 第1回~第4回(1988~1992)のくずう原人まつり(期) | |
| 2-4-3. 第5回~第8回(1993~1997)のくずう原人まつり(期) | |
| 2-4-4. 第9回~現在(1998~2007)までのくずう原人まつり(期) | |
| 2-5. くずう原人まつりから派生したイベント | |
| 2-6. 原人を活用した特産品 | |
| 2-7. くずう原人まつりの現状 | |
| 2-8. くずう原人まつりを構成する主体 | |
| 2-8-1. 担い手の状況 | |
| 2-8-2. 行政の祭りへの対応 | |
| 2-8-3. 来場者の心情 | |
| 2-9. くずう原人まつりを取り巻く他の祭礼行事 | |



■ A: 原人らしさを象徴するもの ■ B: グリーンツーリズム ■ C: 地元の伝統芸能 ■ D: エンターテインメント ■ E: 学術

図1. くずう原人まつりイベント比率の変遷 (横軸は祭りの回数、縦軸はイベント比率を示す)

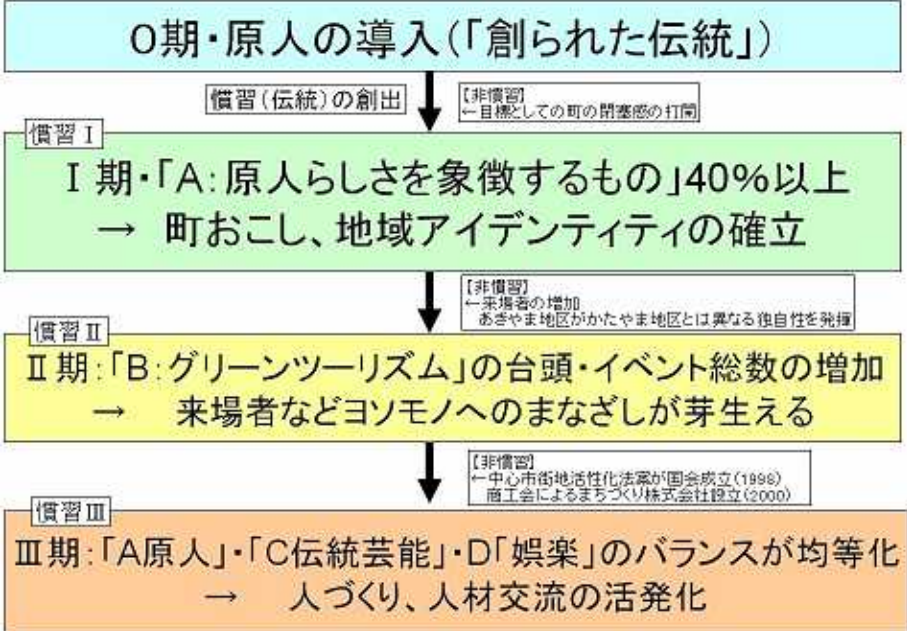


図3. 栃木県における葛生町の位置

図2. 慣習と非慣習の絡み合いによる祭りの変遷図

図4. かたやま会場(左)とあきやま会場(右)

(<http://www.mapion.co.jp/html/map/web/admi09.html>を修正)



【主要参考文献】

- ・E.ポズホーム T.レンジャー編 前川啓二・梶原景昭ほか訳 『創られた伝統』 紀伊国屋書店 1992(1983)
- ・前川啓治 「文化の構築 - 接合と操作」『民族学研究 61-4』 p616~642 1997
- ・柳田國男 「日本の祭」『柳田國男全集 13』 p355~508 筑摩書房 1998(1942)
- ・柳川啓一 「親和と対抗の祭り - 秩父神社夜祭」『祭と儀礼の宗教学』 p123~143 筑摩書房 1987
- ・吉岡政徳 「歴史とかかわる人類学」『国立歴史民族学博物館別冊研究報告 21号』 p3~33
- ・R.ワーグナー 「文化のインベンション」 玉川大学出版部 2000(1975)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
イベント総数	20	19	18	20	22	24	25	29	20	21	28	25	19	18	16	16	14	15	16	18

A 原人らしさを象徴するもの	原人の名を冠したもの																			
	原人パフォーマンス																			
	原人リズム表彰式																			
	原人リズム演奏																			
	原人仮装コンテスト																			
	原人トライアスロン																			
	原人キャンドル																			
	原人村																			
	明石原人とのコラボ																			
	秩父原人とのコラボ																			
	原人列車																			
	原人弁当	車内	車内																	
	ゲンさんの出迎え																			
	原人音頭																			
原人清水バンド																				
食事に原人モチ																				
原人寸劇																				
全体に占める比率	45%	42%	30%	30%	18%	8%	12%	14%	15%	19%	19%	20%	26%	22%	25%	19%	21%	20%	25%	22%
かたやまのみの比率	55%	60%	38%	38%	18%	8%	9%	14%	18%	21%	20%	21%								

古 代 性	火おこし																			
	弓矢作り																			
	土器作り																			
	楽器作り																			
	全体に占める比率	15%	11%	17%	10%	9%	8%	8%	3%	5%	11%	7%	8%	5%	6%	6%	6%	7%	7%	6%
かたやまのみの比率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%								

Aの全体に占める比率	60%	53%	47%	40%	27%	16%	20%	17%	20%	30%	26%	28%	31%	28%	31%	25%	28%	27%	25%	28%
かたやまのみの比率	55%	60%	38%	38%	18%	8%	9%	14%	18%	21%	20%	21%								

B グ リ ン ツ ー リ ズ ム	ものづくり																			
	竹細工作り																			
	木工細工																			
	わら細工																			
	水鉄砲作り																			
	四角いろりづくり																			
	いかだ作り																			
	わらかご作り																			
全体に占める比率	0%	0%	11%	0%	5%	4%	8%	14%	10%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
かたやまのみの比率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%								

自 然 体 験	魚さばき																			
	魚のつかみ取り																			
	魚(マス)焼き	(7)																		
	散歩・散策																			
	ハイキング																			
	スケッチ																			
	野菜の収穫																			
	ドラム缶風呂																			
	キャンプ																			
	自然の中で食事	2	2	3	5	7	6	1												
全体に占める比率	10%	16%	11%	10%	18%	29%	28%	31%	10%	5%	4%	8%	0%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%
かたやまのみの比率	0%	0%	0%	0%	9%	8%	9%	14%	0%	7%	0%	0%								

はかたやま会場、 はあきやま会場で実施されたことを示す
あきやま会場は1999年を最後に地元行政へ譲渡され、以後集計せず

1～10回目：『むらおこし10年』（葛生町商工会青年部広報委員会 1996）
11～13回目：くずう原人まつり実行委員会からお借りしたビデオより
14～17回目：くずう原人まつりのホームページより
18～20回目：筆者自身のフィールドワークより
以上のデータに広瀬正道氏への聞き取りを加味して作成

Bの全体に占める比率	10%	16%	22%	10%	23%	33%	36%	45%	20%	10%	4%	8%	0%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%
かたやまのみの比率	0%	0%	0%	0%	9%	8%	9%	14%	0%	7%	0%	0%								

